

博士論文（要約）

DPC データを利用した呼吸器疾患と

輸血関連急性肺障害の発症リスクについての検討

横山 晃

題目

DPC データを利用した呼吸器疾患と輸血関連急性肺障害の発症リスクについて  
の検討

所属

医学系研究科内科学専攻

指導教員名

長瀬 隆英

申請者名

横山 晃

## 要旨

呼吸器疾患は肺への直接または間接的な要因によって発症・増悪しうる。輸血を誘因とした肺疾患として輸血関連急性肺障害（transfusion-related acute lung injury: TRALI）が知られている。発症には血液製剤と患者の両方の因子が関与しているとされるがものの、患者側の因子として呼吸器疾患との関連は検討されていない。本研究では日本国内の入院患者データベースである Diagnosis Procedure Combination（DPC）データベースを用いてコホート内症例対照研究を行った。輸血を受けた 2,019,501 例の入院患者コホートを特定し、そのうち 72 例の症例が TRALI を発症していた。各症例に対して 1:4 マッチングによる 288 例の対照群を同定した。対照群と比較すると、TRALI 群では血液悪性腫瘍、外傷、および間質性肺疾患の割合が高かった。条件付きロジスティック回帰分析では、TRALI の発症が間質性肺疾患（オッズ比、3.88; 95%信頼区間、1.11-13.6）、 $BMI \geq 25.0 \text{ kg/m}^2$ （2.10; 1.05 – 4.24）および血漿含有血液製剤の使用と関連していることが示された。間質性肺障害が併存する場合、輸血療法を行う際には十分な注意が必要である。また、BMI 高値の間質性肺障害の症例に輸血を実施する際、間質性肺障害の症例に血漿含有製剤を使用する際にも同様に注意が必要である。